

第30回優良省エネルギー設備顕彰

「アサヒビール博多工場」など4件、 顕彰式を盛大に挙

冷凍空調設備の第30回優良省エネルギー設備顕彰式が、3月21日、東京・品川区のホテルラフォーレ東京で業界関係者ら多数が出席して挙

■ 4設備を顕彰、省エネセンター最優秀賞に 株ダイキンアプライドシステムズ

今回の顕彰設備は新設設備部門1件、改修設備部門3件の合計4設備で、うち(財)省エネルギーセンター最優秀賞に、(株)ダイキンアプライドシステムズが施工し、アサヒビール(株)博多工場に導入した『製品冷熱回収による省エネルギーと負荷平準化による電力ピークカットシステム』が、優秀賞に(株)大林組が施工し、サザンスカイタワー八王子に導入した『高効率な蓄熱式空調システム』、奨励賞に(株)東洋製作所が施工し、雪印メグミルク大樹工場に導入した『粉乳濃縮ドレン利用廃熱回収設備』、アクア冷熱(株)が施工し、ホテル日の出岬に導入した『給湯燃料削減工事』の2件を顕彰した。

この度受賞された設備は、川瀬貴晴千葉大学教授を長とする特別委員会を2月24日に開催、慎重審議のうえ選出した。

顕彰式は伊藤恒之・経済産業省産業機械課課長補佐、北村修一・(財)省エネルギーセンターエネルギー診断指導部部長、岸本哲郎・(社)日本冷凍空調工業会専務理事らが来賓として出席した。

定刻の午後3時30分、司会の南雲 誠専務理事が開会を宣し、次いで神宮晃会長が「当会の優良省エネルギー設備顕彰事業は、皆様のご協力により今年で30回目を迎えることができました。」と述べ、「今や、省エネルギーの推進やCO₂の削減は、国を上げて取り組むべき課題であることから、我が冷凍空調業界においても更に積極的に対応することが重要である。と同時に、我が冷凍空調業界は、お客様への設備改善提案による省エネルギー



式辞を述べる神宮会長

強化が重要であり、中長期的にみれば、お客様への経営改善、経営支援につながるものと考えている。そして、東日本大震災による福島第一原発の事故により、より一層の省エネルギーの推進と環境負荷のない新エネルギーの利用促進、さらに確実なフロン回収、排出削減など環境負荷の低減は、設備産業に携わるわが業界に課せられた重要な使命である。本日ここに顕彰を受けられた皆様は、このような環境を十分理解し、困難な条件を克服され、日頃蓄積された技術を駆使され、省エネルギーに尽力されたご功績は多とするものであり、そのご努力に深甚なる敬意を表するものである。」と式辞を述べた。

次いで、川瀬委員長が審査結果の発表を行い、受賞4設備の省エネルギー技術の特徴について講評を行った。

次に顕彰に移り、はじめに(財)省エネルギーセンター最優秀賞のアサヒビール(株)博多工場に導入した「製品冷熱回収による省エネルギーと負荷平準



最優秀賞の授与（宮本・ダイキンアプライドシステムズ社長(左)、北村・省エネセンター部長(右)）



受賞者代表謝辞を述べるダイキンアプライドシステムズの宮本社長



感謝状授与（川面・アサヒビール常務取締役(左)）

化による電力ピークカットシステム」の施工者、(株)ダイキンアプライドシステムズの宮本武則取締役社長に顕彰状が、設備所有者のアサヒビールホールディングス(株)の川面克行常務取締役に感謝状が、北村修一・(財)省エネルギーセンター診断指導部部長から贈られた。

さらに、優秀賞、奨励賞の施工者には顕彰状、それぞれ設備を導入していただいた設備所有者には感謝状を神宮 晃日設連会長より記念品と一緒に贈られた。

■「更なる省エネ化に邁進」と受賞者代表あいさつ

賞状授与のあと、受賞者を代表して宮本武則・(株)ダイキンアプライドシステムズ取締役社長から「冷凍空調設備の省エネ化は冷凍空調設備業界にとって必須である。今回の設備も、現在使用されている設備のエネルギー状況を精査したうえで、

何が一番適しているかを判断し、熱回収技術や蓄熱技術を駆使して設備の効率を向上させたものである。これら省エネ事例を皆様と共有して、今後益々、冷凍空調設備の省エネ化に邁進していきたい。」とあいさつをした。

最後に、来賓を代表して岸本哲郎・(社)日本冷凍空調工業会専務理事より「冷凍空調機器は今や国民生活には欠かせないものとなっている。派手な業界ではないが、産業の下で大きく活躍をしている産業であり、世界シェアの20%程度を日系企業が占めている産業である。また、空調機の歴史は古く100年以上も前から産業があるが、原理が変わらないため、そのまま続いている産業でもある。しかしながら、市場から要求される機能は毎年変わってきており、今回の東日本大震災の影響もあり、電力の削減、電力のピークカットが大きな課題となっている。その中で、省エネ機器の特徴を最大限に活かす、あるいは、ユーザーの要求に適したシステム設計を運用していくことが重要である。そのためにも、設備施工者、保守サービス業者、設計事務所、ゼネコン、サブコン、機器メーカーなど関係者と力を合わせて取り組んでいきたい。関係者が一丸となって、日本の産業を支える重要な業界だと認識を持って取り組んでいきたい。」と祝辞を述べた。

■「今後はエネルギー管理が重要」と記念講演

引き続き、経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー対策課の茂木 正課長による「最近の省

エネルギー政策の動向について」と題する記念講演が行われた。

同講演の中で茂木課長は、エネルギーを取り巻く現状や省エネ法について説明した後、東日本大震災による電力供給の状況について「昨年の夏は、皆様のご協力により何とか乗り切ったが、今年の夏はさらに厳しいものとなる。産業界も引き続きお願いをしていくが、家庭にもさらなるご協力をお願いすることになる。」と説明した。また、今年の夏の状況について、今まで気にもしていなかった無駄な電力の使用に気付いたという方が多く、引き続き節電を実施しているところも多い。また、家庭では、昼間家にいることが少なく、電力のピークカットという意味では、もともと電力の使用が少なかったため、あまり寄与しなかったが、8割近くの方が、今年の夏も、昨年並みか昨年以上の節電は可能と思っており、節電意識の向上につながっている。」と説明した。さらに、今後のエネルギー基本計画では、「省エネ法を改正、強化する。また、エネルギーの供給体制の強化と電力ピーク対策を円滑化する措置を講ずることが重要である。」と説明した。また、これらを実現するためにも、今後は「エネルギー管理システムや高効率空調・給湯・照明等の設備・機器の導入。住宅・建築物全体のエネルギー管理システム



記念講演（省エネルギー対策課長 茂木 正氏）

の実施。複数家庭間、ビル間、地域でのエネルギー管理により、さらに効率的なエネルギー管理」の可能性に触れ、省エネの新たな展開について説明し、記念講演を締めくくった。

■和やかに記念パーティー

顕彰式に引き続き、別室で記念パーティーが開かれた。同パーティーは、木村恵一・日設連副会長の乾杯の音頭で始まり、受賞者、業界関係者、報道関係者など多数の方々が参加し、和やかに歓談、あちこちで情報交換をする姿が見られ、中西登喜男副会長の中締めで盛会裡に終了した。

第30回優良省エネルギー設備顕彰受賞者一覧

No.	部 門	設 備 施 工 者	設備所有者〔設備建物名〕	テ ー マ
1	財団法人 省エネルギーセンター 最優秀賞 〔改修設備部門〕	株式会社 ダイキンアプライドシステムズ (福岡市博多区)	アサヒビール株式会社 〔博多工場〕 (東京都墨田区)	製品冷熱回収による省エネルギーと負荷平準化による電力ピークカットシステム
2	社団法人 日本冷凍空調設備工業 連合会 会長優秀賞 〔新設設備部門〕	株式会社 大林組 (東京都港区)	サザンスカイタワー八王子 商業・業務等管理組合 〔サザンスカイタワー八王子〕 (東京都八王子市)	サザンスカイタワー八王子における高効率な蓄熱式空調システム
3	社団法人 日本冷凍空調設備工業 連合会 会長奨励賞 〔改修設備部門〕	株式会社 東洋製作所 (神奈川県大和市)	雪印メグミルク株式会社 〔大樹工場〕 (北海道広尾郡大樹町)	粉乳濃縮ドレン利用廃熱回収設備
4	社団法人 日本冷凍空調設備工業 連合会 会長奨励賞 〔改修設備部門〕	アクア冷熱株式会社 (札幌市東区)	雄武町観光開発株式会社 〔ホテル日の出岬〕 (北海道紋別郡雄武町)	ホテル日の出岬給湯燃料削減工事